

名大の時間

走りながら考える——コミュニティケア教育研究センター長に就いて

と申します。学部においてでは社会保育学科教授として造形教育の側面から学生とかかわっておりま

み、地域貢献に資する教育・研究の充実・発展を図ることを目的としています。

今日、地方における人口減や高齢化から生じる諸問題は、

2016年度に設立された「コミュニティケア教育研究センター」は、本学の理念の一つである社会連携・社会貢献の基盤を整備するとともに、保育医療福祉、保育、教育、産業振興ならびに地域活性化等に関する課題発見および解決に取り組

住民サービス、物流、交通にかかって具体的な実相を見せています。これは、ローカルな問題に見えて、今後この国のあらゆるところで発生してゆく社会的な縮みから生じる現実を、先行して見せていると言えるでしょう。

過疎はもはや過疎地だけの話ではない。いわば道北に暮らす私たちの感じる不都合への処方箋は、あらゆる数字が右肩上がりの方向を無理強いする社会のあり様とは違う、生活の質向上をめざす

るです。

解決に迫るものであるといえます。つまりこうした研究対象を持つ大学は、未来を創造することにおいてとてつもない資源を持っていないかと思うところ

とはいえ、そうした美辞麗句では追いつかないものも現場にはあります。私の知人の農家さんは「昔は手が足りないとき土下座して人を集めたが、今は土下座する相手がいない」と言います。また、ある地区の保育所から、保育料が無料になったとて保育士が集まらず、子どもを受け入れられないという話も聞きま

現実の諸問題に向かって、共に走りながら考えたい。「地域をフィールドに学ぶ」は、学生確保の際にアピールしている本学の特色でもあります。その理念に共感して名寄にやって来た学生たちと共に

と考えております。学術を背骨として大学と地域の橋渡しし拠点でありたい。今後とも、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



コミュニティケア
教育研究センター
長

堀川 真

2024年4月1日付で当センター長に就任しました堀川真(ほりかわまこと)